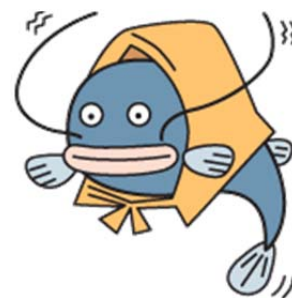


緊急地震速報 なまずきん



マンスリー レポート

2013年 6月号

発行元 株式会社 ハレックス

地震時の退避行動等はどうあるべきか

地震発生時の適切な退避行動について取りまとめた「地震防災研究を踏まえた退避行動等に関する作業部会報告書」が文部科学省から公表されています（平成22年5月）。

地震時の適切な退避行動等は端的にイメー

ジしておくことが効果的であることから、この報告書を基に、推奨する退避行動のそれぞれについて標語例を付記したわかり易い例が掲載されています（地震本部ニュース 2011.7）。ここではその一部を紹介します。

地震時に人命を守るための退避行動等（提言）

地震防災研究を踏まえた退避行動等について、耐震化や家具の固定等の事例対策も含め、地震発生から揺れが収束するまでの各フェーズにおける推奨行動を以下のように整理されています。この内容は、一般的な居室を想定していますが、学校等においてもこれを参考に、その場所の特性を踏まえた事前対策の充実、適切な退避行動の具体的検討を日頃から十分に進めておくことが重要です。また、端的にイメージしておくことが効果的であることから、それぞれについて標語例が付記されています。

（1）事前対策

- ・建物の耐震化、家具類の固定、消火設備の設置、適切な退避行動の事前の検討を行う（事前対策の充実により退避行動の選択肢の増加につながる）

【標語例】

備えあれば憂いなし！ 事前の備えを十分に！ 作ろう自分の心得を！

（2）主要動到達直前（緊急地震速報時、初期微動時）

- ① 主要動到達までの時間が不明な場合
 - ・主要動がすぐに到達するとの想定のもと、周囲に声をかけ、頭部を保護して安全空間に移動する。
- ② 主要動到達までの時間が知らされた場合
 - ・周囲に声をかけ、目の火を消す、頭部を保護する、窓を開ける、履物を履くなど、速やかに安全空間に移動する（地震までの時間に応じて取るべき行動の優先順位を事前に検討しておくことが必要）。

【標語例】

緊急地震速報だ！ 周りに声をかけ、安全な場所へ！

(3) 揺れの最中

- ① 揺れが非常に大きい場合（動けない場合：震度6弱以上）
 - ・その場で姿勢を低くし東部を守る、無理に行動しない
- ③ 揺れが大きい場合（動ける場合：震度5強以下）
 - ・その場の状況を判断し、頭部を守り安全空間に逃げ込む

【標語例】

動けなければ、姿勢を下げ、頭を守る。
動けるならば、落ち着いて、身近な安全な場所へ。

(4) 揺れが収まった直後

- ・火を消す、扉を開ける、履物を履く、余裕があればブレーカーを落とす（二次災害回避や余震に備えた行動を行う）。

【標語例】

揺れが止まれば、火消し、靴を履き、ドアをあける。
ブレーカー落として火災を回避。

| 今後の課題 |

(1) 現状における課題

○現在の避難行動の検討の課題

現状では、安全空間の定量的判断や安全空間の確保の方法は確立されておらず、推奨されてきた退避行動も場合により適否が分かれるなど、ベストな選択の提示は不可能な状況です。

○個人の意識の向上

一方で、個人が自分の身は自分で守るという意識を持って、自らを取り巻く環境を把握し、耐震性の向上、家具の固定など、現状よりもベターな事前対策や地震の退避行動の策定が行われることが望ましいと考えられます。

○個人の限界

しかし、個人には限界があるため、防災関係機関は、既存の退避行動の検証、適切な退避行動の確立、国民への普及等に取り組むとともに、地域や組織（企業、学校等）に対して退避行動の検証を働きかけることが重要です。

(2) より適切な退避行動の実現に向けて必要な将来の姿

このような現状の課題を踏まえて、より確実に国民の生命を守り、より適切で効果的・効率的な退避行動を実現するためには、次のような仕組みの構築が必要と考えられます。

○退避行動の判断支援の仕組みの構築

適切な退避行動の決定が誰でもどこでも容易に行うことが可能となる判断支援のための仕組み（例：安全空間を解析するシステム、音声誘導システム等）の構築とこれらに基づく適切な退避行動の教育・訓練の推進が必要です。

○安全空間を増加させる仕組みの構築

退避行動を効率的・効果的なものとするためには安全空間を増加させることが重要であり、安全空間を増加させる家具の固定等を促進させる仕組み（例：家具固定効果の認証精度、支援制度、専門家等人材育成精度）の構築が必要です。

（地震本部ニュース 2011.7より抜粋）

～～～ なまずきんの働き（2013年5月） ～～～

【発信数等概要】

5月に緊急地震速報（警報）が発表された地震はありませんでした（4月は3回）。緊急地震速報（予報）が発表された地震の回数は91回（4月は103回）でした。発信の総数は468通（4月は600通）でした。緊急地震速報の予測震度4以上と報じた地震の回数は5回（4月は17回）、予測震度3と報じた地震の回数は14回（4月は22回）でした（表1・2）。

平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震の余震は、次第に少なくなってきたものの、最大震度4以上を観測した地震が2回、震度1以上を観測した地震が100回発生するなど、引き続き岩手県沖から茨城県沖の広い範囲で発生しました。5月18日には福島県沖でM6.0（最大震度5強）の余震が発生しました。

なお、余震回数（2011/03/11 14:46～2013/05/31 24:00、本震を除く）は、M7.0以上が7回、M6.0以上が110回、M5.0以上が750回となっています。

表1 緊急地震速報で最大震度が4以上と予測された地震及び警報の発表回数（2013年5月1日～31日）

	予測震度4以上の発表回数		警報発表回数	
	東北地方太平洋沖地震の余震	2回	計5回	0回
上記以外	3回	0回		

表2 緊急地震速報で最大震度が3と予測された地震の発表回数（2013年5月1日～31日）

	予測震度3の発表回数	
東北地方太平洋沖地震の余震	5回	計14回
上記以外	9回	

【福島県沖の地震に関する緊急地震速報（予報）の内容】

5月18日14時47分に福島県沖の深さ46kmでM6.0の地震（最大震度5強）が発生し、宮城県石巻市で震度5強を観測したほか、北海道から中部地方にかけて震度4～1を観測しました。この地震において、観測された最大震度は5弱でしたが、予想最大震度は4であったため緊急地震速報の警報は発表されていません。

この地震で、緊急地震速報（予報）の第1報は地震検知から3.4秒で発表され（表3）、その後、第10報まで発表されています（表4）。

表3 発生した地震の概要

地震発生時刻	震央地名	マグニチュード (M)	最大震度	予想最大震度	地震検知から第1報までの時間 (秒)
平成25年05月18日 14時47分	福島県沖	6.0	5強	4	3.4

表4 緊急地震速報（予報）の詳細

発表時刻等	震源要素等	震源要素				予測震度
		北緯	東経	深さ	マグニチュード [*]	
1	14時48分16秒	37.7	141.6	80km	6.0	4程度以上
2	14時48分17秒	37.7	141.7	10km	6.3	4程度以上
3	14時48分18秒	37.7	141.7	40km	6.2	4程度以上
4	14時48分18秒	37.7	141.6	40km	6.2	4程度以上
5	14時48分19秒	37.7	141.6	30km	6.0	4程度以上
6	14時48分24秒	37.7	141.6	40km	5.9	4程度以上
7	14時48分29秒	37.7	141.7	40km	6.1	4程度以上
8	14時48分43秒	37.7	141.7	40km	6.1	4程度以上
9	14時49分03秒	37.7	141.7	30km	6.1	4程度以上
10	14時49分04秒	37.7	141.7	30km	6.1	4程度以上

図1 福島県檜葉町付近に注目した場合の緊急地震速報（予報）を受信した時の“なまずきん”による再現画面です。

×印は震央、これを取り巻く橙色の円が主要動（S波）の拡がりを示します。主要動は既に福島県沿岸の一部に到着しており、もうすぐ檜葉町や宮城県沿岸到着することを示しています。
 図中程の震度値は、気象庁発表の最大推計震度が4、檜葉町の推計震度が4であることを示しています。

